



ちよにゆう
超乳

ようこそ!

馬並牧場

うまなみぼくじょう

うまなみぼくじょう

ここは馬並牧場。

優秀な競走馬を数々排出する
施設として有名かつ、観光地
としてもにぎわいを見せている。
そんな馬並牧場では優秀な
馬を育てるため、つねに性欲
を発散させ競争に集中できる
環境を提供している。ここに
勤める職員はその業務の
一端をになっているというが…。

馬並牧場職員

「みなさん馬並牧場へようこそ！
ここではたくさんのお馬さんを
育てるための施設です！」

見学者A(子)

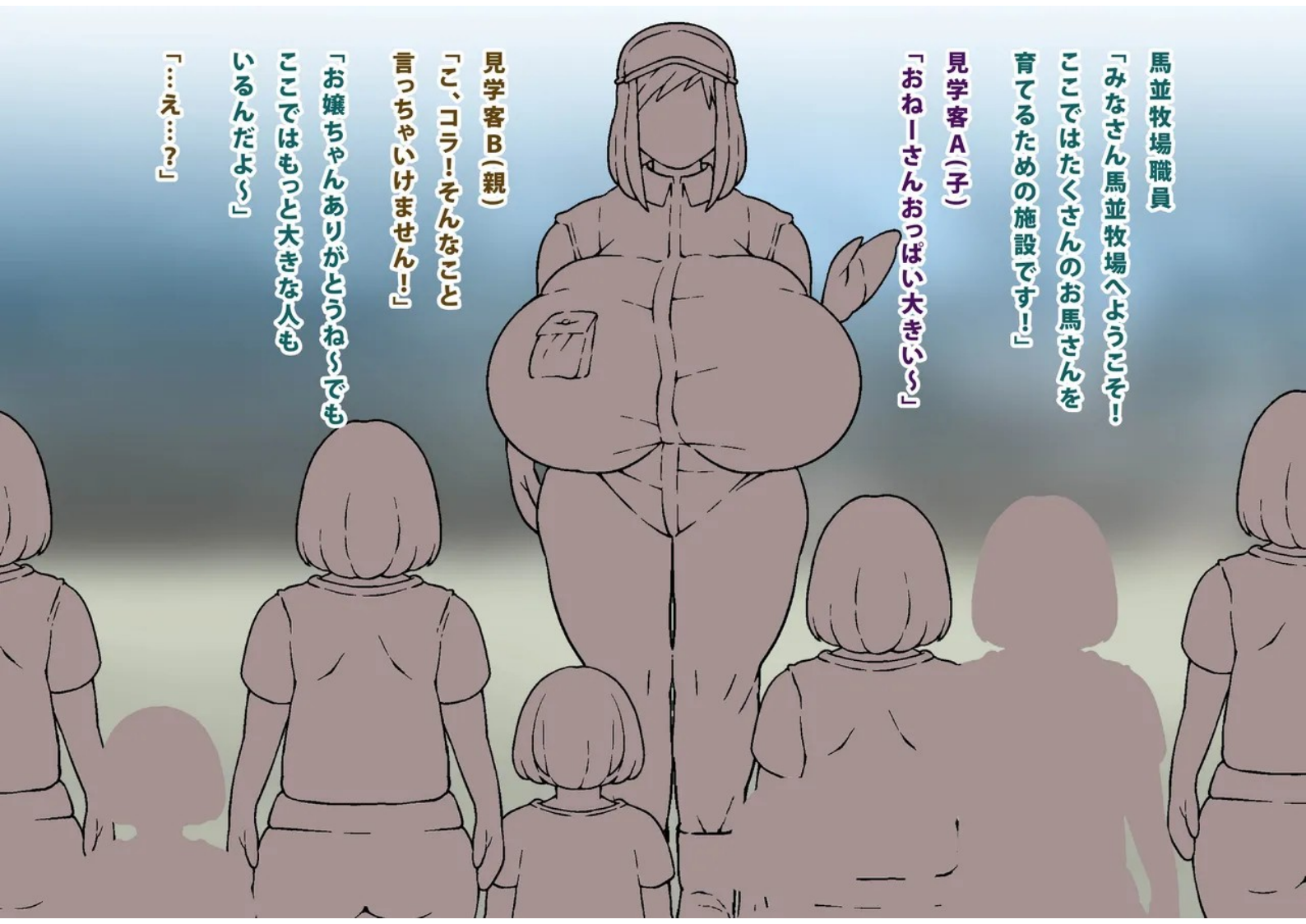
「おねーさんおっぱい大きい〜」

見学者B(親)

「い、コラ！そんなこと
言っちゃいけません！」

「お嬢ちゃんありがとうね〜でも
ここではもっと大きな人も
いるんだよ〜」

「…え…」



「ちょうど2頭のお馬さんが来てくれましたね」

「うんすごいたくましいい♡」

「身体の下に玉みたいなのついてる」

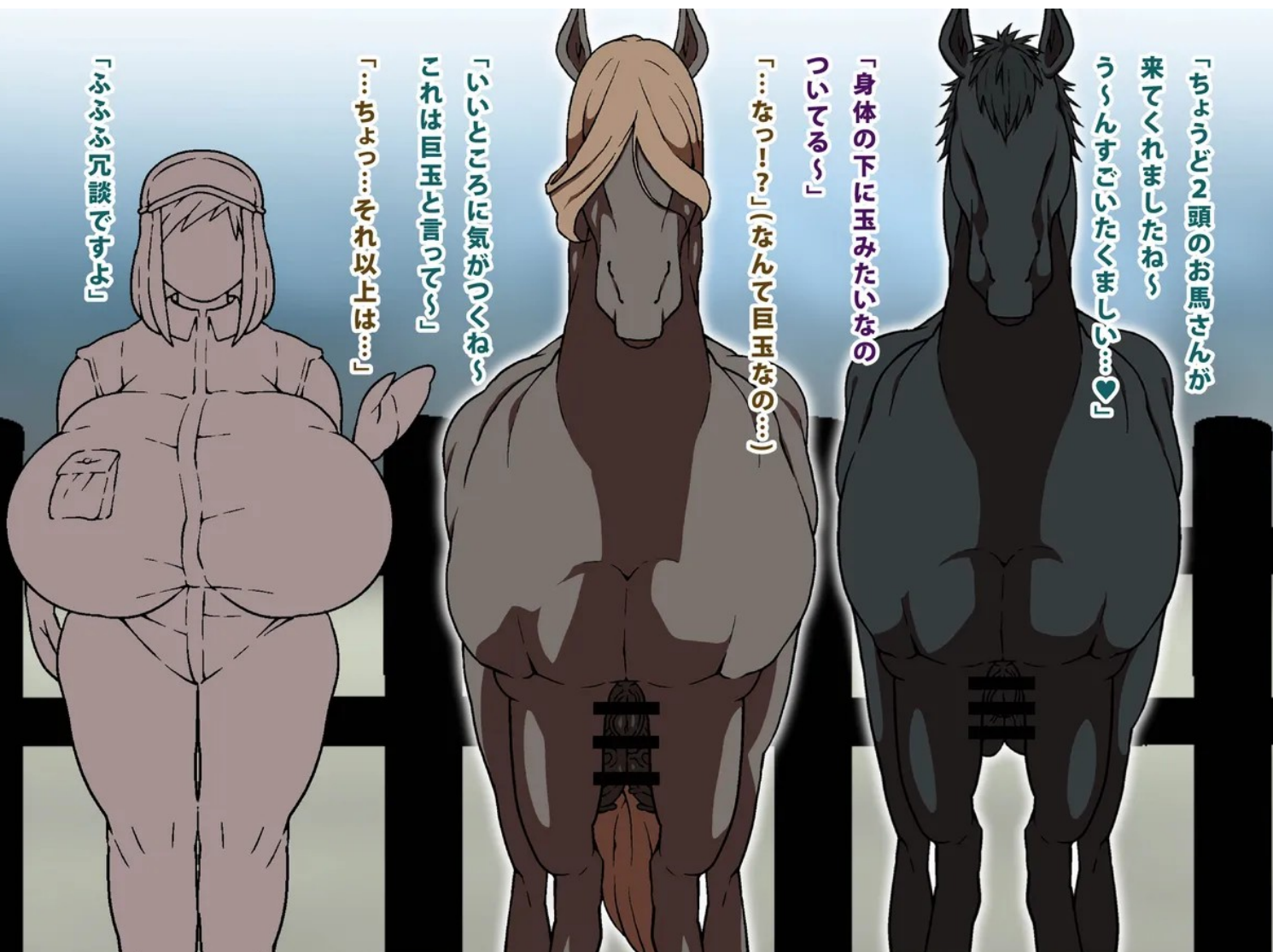
「…なっ!?!」(なんて巨玉なの?)

「いいところに気がつくね」

「これは巨玉と言ってる」

「…ちよっ…それ以上は…」

「ふふふ冗談ですよ」



「あっちでは職員朝礼が行われていますね」

「…!」(みんなすごい身体…!)

所長「新卒の皆さん
今日から研修が
始まります!」

「先輩の指示を
しっかり聞いて」

「業務をしっかりと
覚えましょう!」



The image depicts three anime-style female characters standing in a row, viewed from the back. They are wearing blue, form-fitting uniforms with a high collar and a belt. The most striking feature is their extremely large, rounded buttocks, which are shaded with a gradient from light blue to dark blue. The character on the left has brown hair, the middle one has black hair and glasses, and the one on the right has grey hair. They are all looking towards the right side of the frame.

「そして先輩の皆さん！
業務になれてきた
かと思いますが」

「初心を忘れず
優しく丁寧に後輩に
接しましょう！」

「それでは今日も
一日よろしく
お願いします！」

馬並牧場の一日が始まる…!!



新米「…うわあ…お馬さんの

…あそこってこんなに大きいんですね」

先輩職員「すごいでしょ。ちょうど

あなたを見てフル勃起しているようね。

さっそく研修をはじめましょう」



どたん

はぁい

はぁい

はぁい

どたん

どたん

どたん

どたん

どたん

どたん

どたん

どたん

「おっ…おっ！な、なんであんなでっかいチンポが入って…？」
「特殊なローションを塗ってあるの。慣れればそのままでも入るようになるからあとは経験ね！」



「…って言ってる間にいきなりおね、そのデカ尻でしっかり受け止めてあげて。」
「えっ…ちよまっ…」



「まだ彼は満足してなさそうだし…
もう少しやらせてあげられる？
私は3時間後にまた来るわ！」
「えっ！？これを
あと…待って！」



「あ…おお…巨玉から特濃精子
どっくどく流れてくるのがわかりぬ…♡」
「いい感じね！その子の精子は
超特濃で有名なの。
それにしてもあなた筋が
良いわね。そのでっかい
お尻にはポテンシャル
を感じるわ」



新米、研修済み



「新人の根暮(ねくら)さんね？
うわさ通りの良い胸してるね」

「…あのっ…えと…」

「今日はあなたに適した
部署を紹介するからしっかり研修してね」

「あっ…はい…」



「…あのっ…えと…」

「これちょっと露出が…」

「大丈夫よ！今からその胸を」

「存分に使ってもらうんだから」

「…それってどういう…」

「あなたが研修するのは搾精部なの！」

「えっ…？」



「そうそう！胸をぎゅっとして…
いい感じー！」

（こんな格好で何するんだろ…
さくせい？って言ってたけど…）

「ローション塗ってくね」



「ひゃっっっ…」

「ごめん冷たかった？」

もう待ちきれない子が出てて…

急がないと…」

「…よしっ…こんな

もんかな！じゃあ…

そこの前の子からおいで」



「ブルルルルッ」

「ひっ…!」(すごい脈打ってる…)

「興奮してるわね!」

胸を上下してしごいてあげて」



(胸が圧迫されて…うう…こっちまで熱く…)

「そろそろ射精しそうね！

思い切りぎゅってして！」



バクン

はよっ

バクン

はよっ

はよっ

はよっ

はよっ

はよっ

「おほうっ♥」（超巨大馬チンに刺激されて
デカ乳いぐっ♥♥）



おほうっ♥
おほうっ♥

おほうっ♥
おほうっ♥

おほうっ♥
おほうっ♥

おほうっ♥
おほうっ♥

おほうっ♥
おほうっ♥

おほうっ♥
おほうっ♥

おほうっ♥
おほうっ♥

「あなた母乳も出るのね、搾乳部の適正もあり…」

…さて、次の子を呼ぶわね」

「おっおお…」(先輩に見られながら

特濃母乳大噴射しちゃった…)



根暮、

搾乳部適正アリ

研修済み



たま博士「君が真目(しんめ)くんだね？」

今回は新人研修をかねた研究に

参加してくれて感謝するよ」

真目「真目です！」

よろしくお願いします！」

「では…さっそくこれに

着替えてもらえるかな？」

「はい…」(これって…)



「…着替えたね

うん、素体としては申し分ない」

「この水着…？結構小さい
ですね…」

いざよ…
あの…

「そうかな？ここでは

基本サイズだよ。今日はこの
薬品を投与したいと思う」

「なんの薬品です…？」

いたぶら…

いたぶら…

せき

みん

アゲル

アゲル





ムキムキ

ムキムキ

ムキムキ

「…おっ早速反応がきた」

「…>」



「ええっ…？この乳首…え…？」

「いい感じだね…」

「これなら実用化もできそうだ」

「実用化…？」

「この牧場は人手不足でね

いろんな部位で性処理ができる

人材を求めている…その一環だよ」

「もしかして…乳首で…？」



「ちょっと…この拘束どうにか
なりませんか…?」

「身体を固定するのに必要
でね、我慢してくれたまえ…」





「んっ♡」

「うそっ…入ってる…」

あんな大きいのが…んおっ♡

びびり♡

どちゃゅん

どちゃゅん

X||TV



「んっ♥初めてなのにつ…
一切容赦ない腰振り♥
絶対妊娠しないのに
野生の交尾してるっ♥」

ちゅわん
ちゅわん
ちゅわん

ちゅわん
ちゅわん
ちゅわん

ちゅわん

ちゅわん

「んほおっ♡不意打ち射精で」

「いぐっ♡♡」



ていっん

おっ

いぐっ

おっ

おっ

とっぴゅううう

「射精量も上々…」

「実用化もできそうだ」

「あっ♡んっ♡」

「…新人くんには少し

ハードだったかな？」



びびん

あ

あ

ぽんぽん

びびん

せきん

みち

ぐんぐん

真目、研修済み



びびび

あ

あ

ぽんぽん

びびび

びびび

みち

びびび

尾致先輩「あつ！ちょっとそこの君！新米くん
だよな？悪いんだけど搾乳の手伝いを
頼めないかな？」

新米「えっ！あっはい！

わかりました！」

(…え…先輩の胸すごいおっきい…

この作業着かなり伸びるのに

ボタンがはじけそう…)



ぎゅぎゅぎゅ

ぎゅ

ぎゅ

ぎゅぎゅぎゅ

ぎゅ

ぎゅ

ぎゅぎゅぎゅ

「この器具を取り付けけるのを補助して
もらいたいんだよね」

「搾乳機ってやつですかね？」

「あれ？でもこの牧場に牛さんいましたっけ？」

「…あーいやまあ牛はいんだけど…」

ガバツ

「え…なんで脱いで…」(…え…まさか…ね…?)

どたどたどたどた

どたどた

どたどた

どたどた

どたどた

どたどた



ブルルツ…フーツ

(後ろのお馬さん…とっても興奮してる…?)

搾乳にお馬さんは関係ないと思うけど…)

ビキツビキツ

(…って良く見たらビキビキに立ってる!?)

もしかしてただの搾乳じゃないのかな…)



「よい…しょっ」(キツキツだ…)

「ありがと！もう片方も
同じようにお願いね」

「はい！あの…やっぱり牛さんじゃなくて
先輩のおっぱいから搾乳するんですね…」

ははははは

「ええ…この牧場の馬は母乳が好きの子が
多くて…適性のあるスタッフが搾乳部に
配置されるってわけ」

「…そ、そうなんです…」

(にしても先輩の胸大きすぎない…?)

むぎゅ

むぎゅ

むぎゅ

むぎゅ

むぎゅ





「あっ！右がもうあふれてきちゃった」

「わっ！まだつけてないのに」

はす...

おま...

「早くつけないと...まず...」

「まず...って何がです...」

おま...

おま...

おま...

おま...

おま...

おま...

おま...

「きやつ！おそかった…」

「うわっ！さっきのお馬さん！」

「まいったわね…」

「一度吸いつかれると離れないのよね…」

ちよっ!?

んっ!?

「…量が減っちゃおうけど」

「しょうがないからはじめちゃおうか…」

「…わかりました！搾乳開始します」

おっぱい...

おっぱい...

おっぱい...

おっぱい...



「んんっ…♥吸いつかれてるから…
いつも以上に感じちゃう…♥」

「…ダメっ…
普段の搾乳ですら我慢できないのに…
うっ…うっ…うっ…もっ…」



おっぱい
おっぱい
おっぱい

おっぱい

おっぱい

おっぱい

おっぱい

おっぱい

おっぱい

おっぱい

おっぱい

「新人の前なのに…先輩なのに…」

「いっ♡♡♡」

どきどき

!?

おっぱい

お尻

おっぱい

おっぱい

お尻

お尻

お尻

お尻



「…おお…イっちゃった…」

新人にいき顔みられちゃった…♡」

「せ、先輩…大丈夫ですか…?」

「だ、大丈夫よ…今のでたぶん

搾乳機が限界だから新しいものに

かえてもらえる?」

「えっ…ほんとだ!今かえます!」

(搾乳機って一回で壊れるものなんだ…)

あざっ
おっ

むぎゅ

おっ

どろろ

みゅ

おっ

おっ

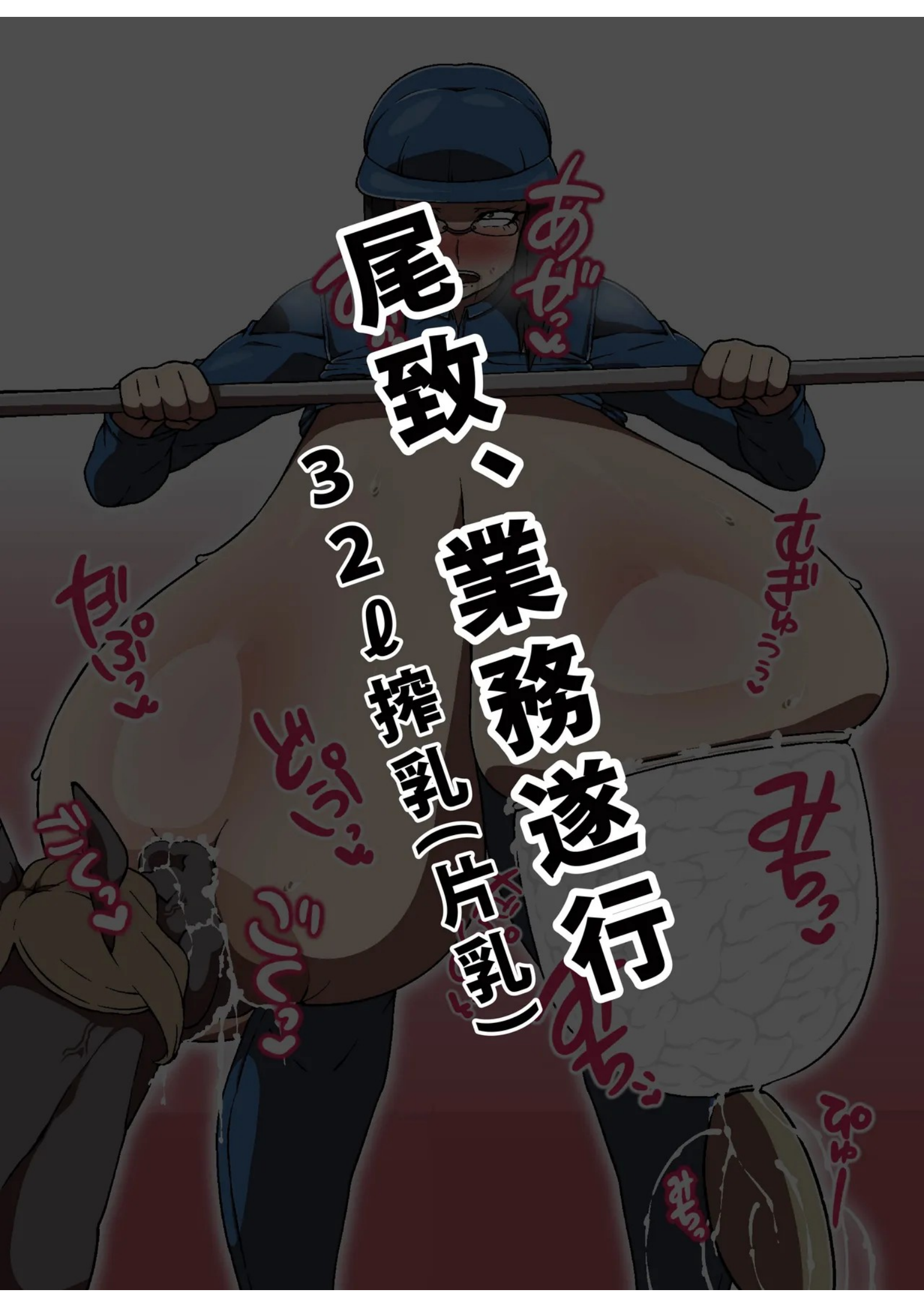
おっ

おっ

おっ

おっ





尾致、業務遂行
3 2 1 搾乳（片乳）

あが

おっぱい

みち

おっぱい

おっぱい

おっぱい

おっぱい

おっぱい

おっぱい

尾致先輩「…ふーっ…」

今日の搾乳もハードだったわね…

直で沢山飲まれちゃった…」

「直飲みは本当はダメだけど…」

ま、いっか…

あとは片付けと日報書けば

終わりっつと…今日もお疲れ、私っ」



どたどた

むっちゅ

むっちゅ

どたどた

むっちゅ

むっちゅ

どたどた

ブルブルッ

「…えっ!?!」

母乳飲んでた子だ…

ちよっと興奮しすぎじゃ…

コレやばいかも…」

えっ!?!

ビキキキッ

バクンッ

びびび

むちゅん

たぎ

たぎ

むちゅ

たぎ



「...こうなったら

馬並牧場ならではの

方法で落ち着いて

もらうしかないわね」

「ほらっ...」

極上の駄肉オナホよ

おいで〜♥」



ボルンツ

「…え…?ここまで

大きいの見たことな…

母乳を直接飲みすぎると

局部が大きくなり成長しすぎる

ってきいたことが…」

えっ…!

あれ…!

「…まさかこれが…?」

…ちよつと大きすぎるし

今日は既製品のオナホで

我慢してもら…」

たぷっ

とたぷいっ

キキッキ

たぷい

キキッ

あ、ち

いっ



ずぼっ

「ひっ!?!」

「もしかしてあの

大きさをいきなり挿入っ!?!」

ひっ!

ひっ!?!

「おっ...ダメっ...

ここで動かれたら...」

たっ!

たっ!

たっ!

たっ!

たっ!

たっ!

たっ!

たっ!



「特大爆根に中出し
されて…」

「いぐっ♡」



「あ…あがつ♥」

(超特濃精子でボテ腹
になっちゃった…♥)

新米「…先輩」

片付け終わりました…

って…えっ!?!?

わわっ! 思いつきり種付け

されてる!」



尾致、

残業

4時間

(特別手当付)

残業申請



〜とあるビーチにて〜

ナンパ男A「すっげえ

身体だねおねーさん笑」

ナンパ男B「俺らと

一緒に遊ばない？」

水花「…いや…」

彼氏「…オイ！そこ！

俺の彼女になにしてんだ！」

「チっ…彼氏持ちかよ」



〜水花宅〜

「やっぱり人目につくか…職場でもセクハラとかされてない?」

「…うん、大丈夫…」

基本女性しかいないし…」

「そっか!それなら

安心だなく。せっかく

入った優良な職場だし

長く続けられると良いな」

「…ありがとう…♥」



おっぱい

お尻

おまんこ

おまんこ

おまんこ

おまんこ

馬並牧場

「うーん…またキツク
なってきた…総務に相談
しよ…」

…えっと…今日の業務は
A塔か…

あそこの子たち
すごく大きいけど
大丈夫かな…」



「...でっかー!」

「...こんなの耐えられるかな...」

ぐんぐんぐんぐん
キキキキキキ
キキキキキキ

きゅん...
#ちんちん
ちんちん
ちんちんちんちん

#ちんちん
ちんちん





「…流石にやばいかも…
こんなデカイ子初めて…
…おてやわらかに…」

デカッ
デカッ
デカッ
デカッ
デカッ
デカッ

デカッ…

デカッ…

デカッ
デカッ
デカッ
デカッ
デカッ
デカッ

デカッ
デカッ
デカッ
デカッ
デカッ
デカッ

デカッ
デカッ
デカッ
デカッ
デカッ
デカッ



「おほおっ」
「おおっ…でか…」
「発で
奥にあたりゅっ♡」

おほおっ!
おほおっ!
おほおっ!
おほおっ!
おほおっ!
おほおっ!
おほおっ!
おほおっ!
おほおっ!
おほおっ!



「一切手加減なしのフル
ピストンっ♡♡
本能だけのこれ…完全に
交尾っ♡」

「人間チ○ポなんて
目じゃないっ♡♡
んおお…まずいっ♡
馬チンビクついて…♡」



「特濃馬精子
射精されていぐっ♡♡」
だ

おっ!
おっ!
おっ!

おっ!
おっ!
おっ!

おっ!
おっ!
おっ!

おっ!
おっ!
おっ!



「わたし彼氏いるのに…♡
精液ポテ腹にされちゃってるのに…♡
この馬チンの虜になっちゃった…♡♡」

「あっ…♡♡
完全に墮とされた…♡」

びんびん

びんびん

ぽんぽん

ぽんぽん

びんびん
びんびん

ぽんぽん



水花、業務遂行

おっさん

おっさん

おっさん

おっさん

おっさん

馬並牧場職員「お待ちしてました
牛姫姫奈(ぎゅうきひめな)さん」
牛姫姫奈「ごんが噂の
馬並牧場ですわね！」

「わたくし牛姫家
との共同経営にふさわしいか
しっかり見定めますわ〜」



ホホホ

おはよう

おはよう

おはよう

おはよう

おはよう

おはよう

「...?何か勘違いされて
いませんか?今回姫奈さんは
新人として研修に参加
いただく予定ですが...」

「なっ...!?!?そんなはず
ありませんわ...わたくしが
こんな所で働くなど...!」
「...ひとまず着替えて
いただいて...」



「...な、何かの間違いでは!?!」

「...いえ...牛姫家は財産難になり馬並牧場のオーナーに資金提供を受けたとか...」

「...少しでも借金返済のため姫奈さんにはここで働くようお願いしてますよ」

「...そ、そんなばかな...」

ちよっ

ちよっ

ぽんぽん

チチ...

ぽんぽん

ぽんぽん

ぽんぽん

ぽんぽん

ぽんぽん



「ふふふ〜」

「...ふふふ...」

ふふ

ふふふ

ふふふ

ふふふ

ふふふ

ふふ



「...と、留め具がつ...」

「...さすが名家のお嬢様
ですね、特注の作業着が
はじけるなんて...」

「まあ今日の業務には
差支えないのでそのまま
始めましょうか」

「...そ、それってどういう...」

あわわわわ...
いね...
あわわわ...



「……何に……馬の……」

「あらら、興奮して出てきて
しまいましたね。今日はこの子の
相手をしてもらいます」

「……あ……相手って
まさか……?」

「初研修としては中々ハードですけど
……まあ……その身体ならいけるでしょう」



びびり

びびり

びびり

びびり

びびり

びびり

「改めて見ても
本当に良い身体ですわね…
職員でもここまで
適正のある身体は
中々いませんよ」

「…嬉しくありま
せんわ！」
(なんとかスキを
見つけて逃げないと…)

お尻

お尻

お尻

お尻

お尻



「では…この子の
処理、お願いしますね」

「…こんなことを
日常的にやって
いるの？どうか
してますわ！」

「それにこんな…
大きな…その…
入るわけありま
せんわ！」

あー
ひびく
ヒキヒキヒキヒキ
ヒキヒキヒキヒキ



「…んっ♡んん♡」
（こんなのセッ○ス
なんかじゃあり
ませんわ…交尾…
交尾ですわ…）

（名家のわたくしが
こんな…馬チンが
ふくらんでる…？
まさかっ…まっ）

げんげん
げんげん

ぱんぱん

ぱんぱん

ぱんぱん

ぱんぱん

ぱんぱん





(特濃精子大量に
流し込まれてイグっ♡)

「♡♡♡♡♡」

あまのこ
おぼろ

おぼろ
おぼろ

「…んおっ♡おにやか
パンパン…♡」

「初射精でまだ意識が
あるなんて優秀ですね」

お
お
お

「これなら連続で
できそうです…」

私は雑務があるので
2時間後にまた…」

「…えっ!?!今のを…
2時間!?!待って!」

び
び
び

ハ
ッ
ッ

ハ
ッ
ッ



5時間後

「すみません」

「ちよつと長引いちゃって」

「…ってあらら…」

「…おほおつ♥んおつ♥」

「良い感じに精液ボテ腹
になりましたね…
研修は無事完了つと！」

「…明日からも

よろしくお願いしますね！」

「ほおっん♥…」(も、もう無理…)

おほおつ

おほおつ

おほおつ

おほおつ

おほおつ

おほおつ





姐奈、入社決定
配属は要検討

おはよう

おはよう

おはよう

おはよう

おはよう

虎見「おう！あんだ新人だな？
私が今回の研修を
担当する虎見（とらみ）だ！
よろしく！」

「…ようよろしく
お願いします…！」



たいぷん

たいぷん

みちゅ

たいぷん

たいぷん

たいぷん

たいぷん

たいぷん

「うん…？元氣ないな？
もしかして前の研修が
ハードだったか？」

「…は、はい…実は…」

「あはは！容赦ない研修も多い
からなあ。まあ今回は安心
しなよ！私が手本を見せるから…」



「…っと…準備もできたし
そろそろやるか！」

「…す、すごい身体ですね…
私よりも大きい…」

「…にいればもっと大きくなれる
から大丈夫だぞ！」

「まあ今回はお手本を見せる
だけだからそこで見ててくれな」

「…よ、よろしくお願ひします…」



「...ホラ...
来たぞ...」

「...じらし(馬)と
やるときは
こうやって誘ってやるとすぐ
発情するから...」





「こりゃ大物が釣れたな」

新人にはキツいだろうし
丁度よかったかもな」

「後は勝手にぶち込んでくるのを待って...」

たっぽん

たっぽん

たっぽん

びんぎ

たっぽん

びんぎ

キキキ

たっぽん

ぎち...



「おほおほ」

「...いつもこの容赦ない挿入はキク...」

「...これからのピストンは気をしっかり持たないと気絶しちまうから...」

おほおほ

おほおほ

おほおほ

おほおほ

おほおほ

おほおほ

おほおほ

おほおほ



「…まっ…まだ…」

説明のと…途中っ

容赦…なさすぎっ♡♡」

「…デカチンさらに

膨らんで…射精の

合図がっ…んおっ♡」

ばるるるる

べちゅ

ぽんぽん

ぽんぽん

ぽんぽん

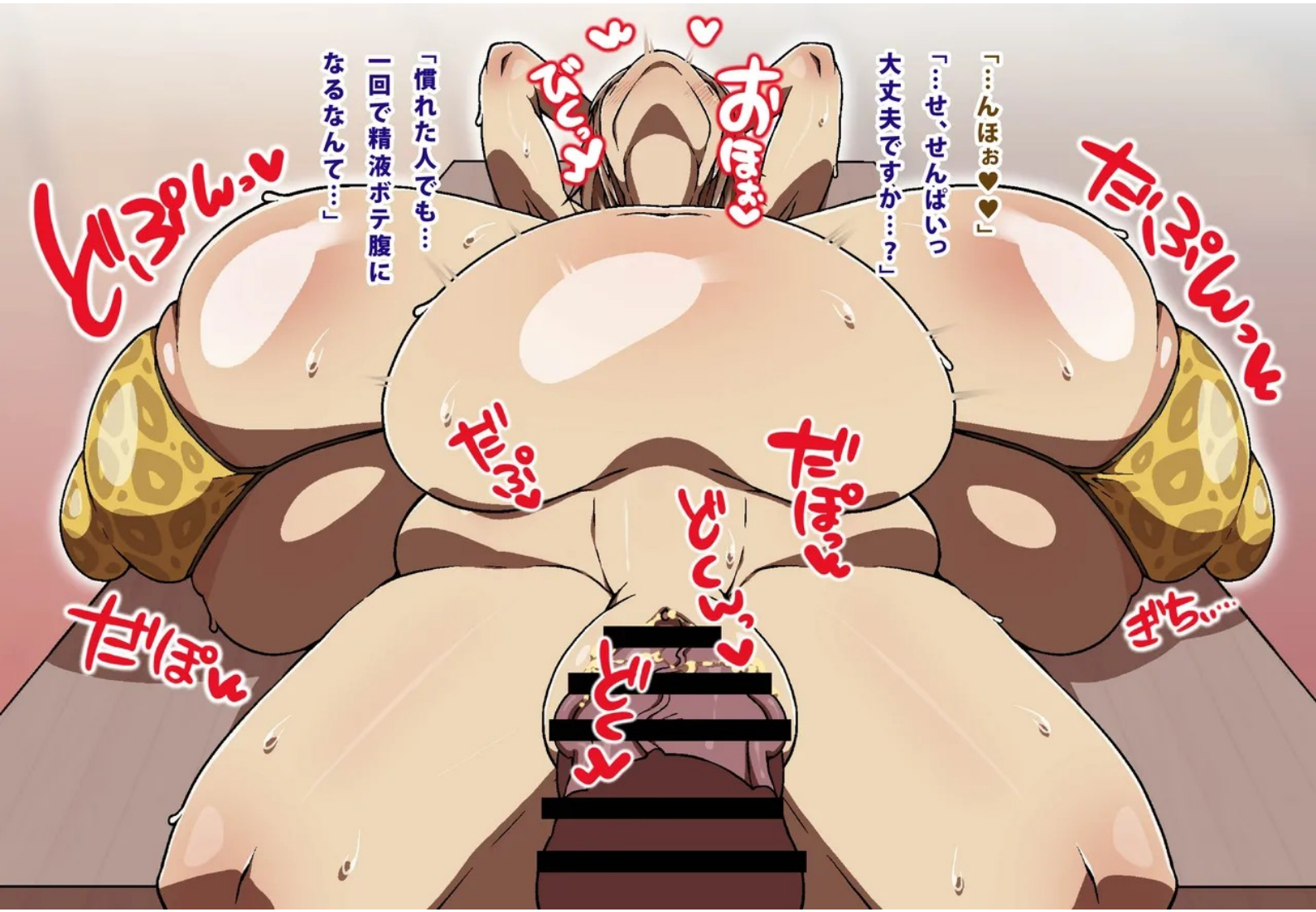
たっ

たっ

まっまっ

べちゅ

まっまっ



「...んほお♥♥」

「...せ、せんばいつ
大丈夫ですか...?」

「慣れた人でも...
一回で精液ポテ腹に
なるなんて...」

おほおほ
どきどき

どきどき

どきどき

どきどき

どきどき

どきどき

どき...

どきどき
どきどき
どきどき
どきどき
どきどき

通りすがりの先輩職員

「あれ？新人ちゃんここで研修？」

「あ…虎見か…」

「…だ、大丈夫なんですか…これ…」

「…大丈夫、大丈夫、彼女

良い身体してるから、巨根の子と

当たる事が多くてね…よくこっつなっちゃうのよ…

ま、よくあることよ」

「…そ、そうなんですわね…」

たぽん

たぽん

ちち

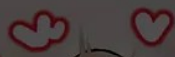
たぽん

どろろ

たぽん

おほ

たぽん





虎見、業務遂行

たはぽん

たはぽん

たはぽん

たはぽん

たはぽん

まぢ

とら



職員A「…うーん…

なかなか興奮してくれないねこの子…
ポテンシャルはすごいんだけど…」

職員B「好き嫌い激しいみたいですね…
この職員はどうでしょうか？」

「あゝ白蘭(びやくらん)さんか！
かなり優秀な身体して…うわすごつ！」



「写真でもすごさが伝わりますよね…
これをこの子に見せて…」

ズルズル



「めちやくちや興奮してる！」

「これいけるかも！」

「白蘭さんにはこの子専用肉便器になってもらおう！」

「了解です！声かけてきます！」

「…ってことなんですよ
特別待遇もしますので
今から大丈夫ですか？」

白蘭「…わっ！やった！
嬉しいです！」



「…装備はこんなもんかな…」

「…あの…これ…もしか

して専用肉便器って

やつでは…」

「そうですね？」

「…今から辞退って…」

「何言ってるんですか？」

「名譽なことですよ？」

「…はは…」

（激務って聞くんだけどな…）





「これでバッチリですね！」

「…いつまでこうしてれば…」

「この子が満足するまで…」

「ですかね」

「…そ、そんな…」



「やっぱり効果できめん！」

「すぐ交尾してます！」

「んおっ♡いきなり挿入っ♡♡」

「…では落ち着いたところにまた

来ますので…」

「待って！おねがっ…んんっ♡」



職員A「こちらでは

たくさんのお馬さんがのびのび

暮らせるエリアとなっていて」

見学者A(子)

「わーすごいねママ」

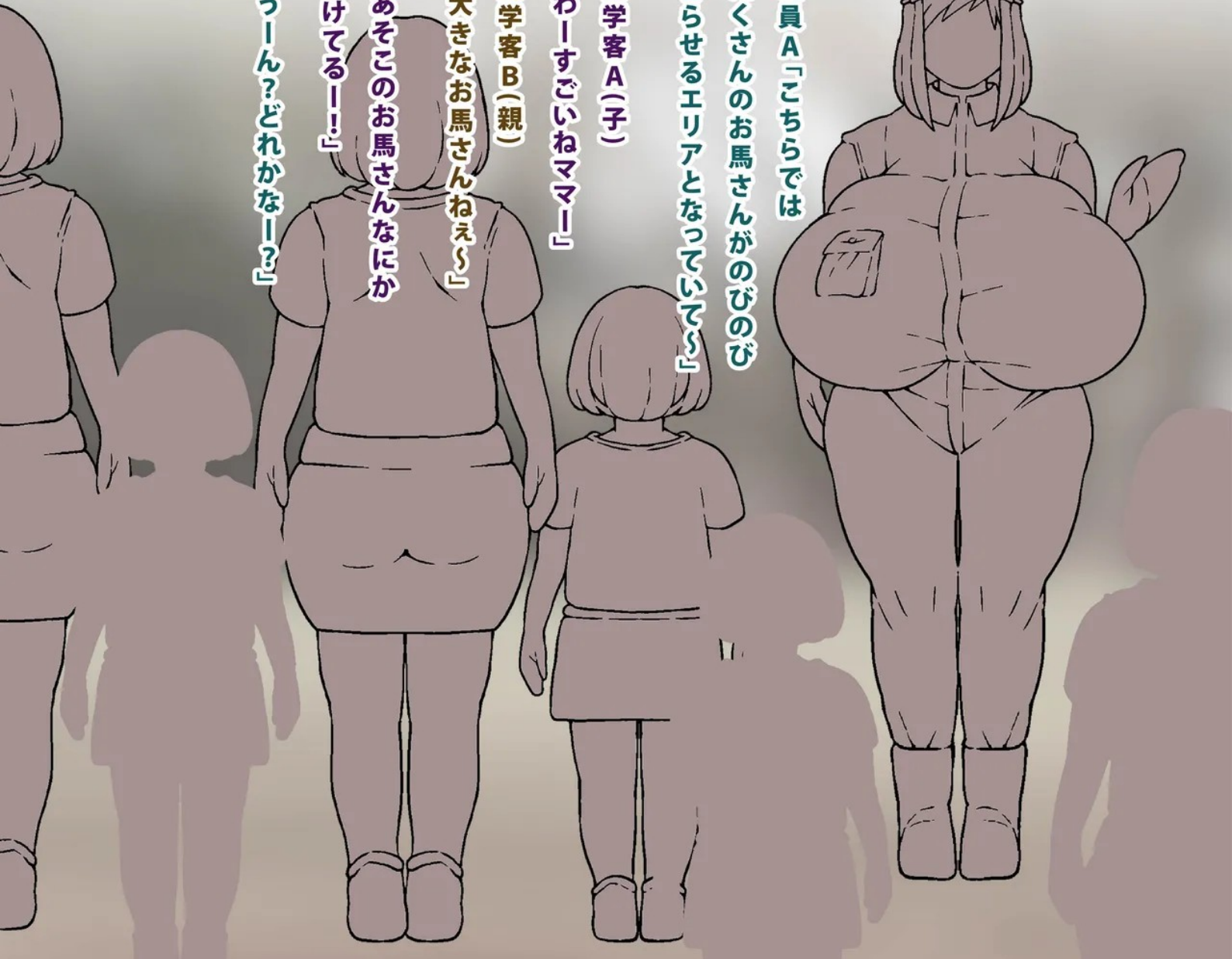
見学者B(親)

「大きなお馬さんねえ」

「あそこのお馬さんなにか

つけてるー!」

「うーん?どれかなー?」



「お馬さんのお腹に
何かついてるみたい」

「なにか喘ぎ声みたいなのが
聞こえるけど…」

「…あぁあれは…」

ははははは

はははは

はははは

はははは

はははは





「わあ！おっぱいの大きな女の人〜」
「きゃああ！あれ…もしかして…」
「この子専用の肉便器ですね
特に優秀かつ適合のある人材しか
就任できない特別待遇職です」



「何かいっぱい出てる」

「見ちゃいけません!」

(すごい射精量♡)

「親子に見られながら…」

「い♡♡い」



「…♥」(すごい精液ポテ腹…)
「わたしもここで働きたい〜」
「将来有望ですね〜お待ちして
ますよ〜」

馬と女性の欲があふれる馬並牧場。
是非あなたも一度は訪れてみてほしい。
野性味あふれる彼女たちを見れば
きっと満足できるだろう。

終わり

番外編ふたなり馬チンウイルス



どだい30w

おっす

おっす

おっす

おっす

おっす

たま博士「…フム…
経過は順調…と…」

「…一般被験者試用前に
良いデータが取れそうだ」



フム

おはっ

おはっ

おはっ

おはっ

おはっ

おはっ

馬仁(ばに)「オイっ!ここどこだよ!」

たま博士「やあ…目が覚め

ただだね…おめでどう…

君は選ばれたんだ…」

オッ!

オイッ!!

オッ!

「はあ?何言ってるんだ?」

早くこの拘束具はずせ!」

「君の勤務態度は更正不可と

判断され、馬チンふたなり、

ウイルス被検体として

採用されたんだ」

オッ!

オッ!

オッ!

オッ!

オッ!

オッ!



「うるえ！馬ごときに

奉仕なんてしてられるか！」

「強制就労枠の

君にとってこれは刑務でもあるのだよ？

だが今回の実験を見れば君の考えも

変わるだろう…」

「ついに我々は人体に

「馬の性器」を

発現させる

ウイルスを完成

させた…名付けて

「馬チンウイルス」これが

実用化すれば人はいつでも

馬チンと愛し合うことができるんだ…」

「すでに君にはこのウイルスを

投与してある…

ホラ、変化が始まるぞ。」



「は？何頭のおかしごとと言って…」

は？

ずりゅんっ

ずりゅんっ
ずりゅんっ
ずりゅんっ

ずりゅんっ
ずりゅんっ
ずりゅんっ

ずりゅんっ
ずりゅんっ
ずりゅんっ

ずりゅんっ
ずりゅんっ
ずりゅんっ



「え……？は……？な、なに……これ……」

「おお！見事な作用だ……」

「素体为上質でない点を少し懸念して
いたがいらぬ心配だったようだな」

え……？

なん……

「巨玉のハリも良い……」

「沢山の特濃精子がつまってそうだ」

「……あたしに巨玉？馬チン……？え……？」

ヒキキキッ

キキキ

うん

うん

「おおお…!?!?」

「もう精子が上がってきてきているのかな?」

「投与後は極度の興奮状態だろうから私の身体を視認しているだけでも射精感がこみあげてくるはずだ」



「フーツ♡フツ♡フツ♡」

「チ○ポ全体が膨張し射精一步手前と言ったところか…虚勢をはる

余裕も無いようだね」

「絶対イかない…絶対いか…いつ」

「我慢は無駄だ…無様に吐精したまえ」



「イかなっ…い…イか…」

「イツ♥」

「固形レベルの特濃精子がどんどん
出てるね…中に出されると二発で
孕みそうだ…これなら一般被験者利用も
可能だろう…」



「…あっ…♡しまっ…
特濃精液の激臭キくっ♡」

「発情効果もバツチリ…♡
あのウマチ〇ポを皆に…
想像しただけでいきそ…♡♡」

とだっしゅっ

とだっしゅっ

とだっしゅっ

とだっしゅっ

とだっしゅっ

とだっしゅっ



馬チソウウイルス実用化決定

どだいぶん

と

んんんん

たにん

ちんちん



新米望(しんまいもち)

馬並牧場新入社員。動物好きのため馬並牧場に応募し、大きな尻が決め手で採用される。その尻を活かし、初研修にもかかわらずケツ穴での業務を行った。今後はより尻を活かし、2穴の開発が検討されている。

★プロフィール★

- 年齢22歳
- 身長：159cm
- B：123cm
- W：76cm
- H：138cm
- 体重：64kg



根暮端美(ねくらはしみ)

馬並牧場新入社員。親にすすめられ馬並牧場に入社。胸が大きい
ため採用され、それが活かせる初
研修としてパイズリが採用。
主体性に乏しく、学生生活では胸
をいかに目立たせないかに注力
しすぎたため、必然的に孤立して
しまった。

★プロフィール★

- 年齢24歳(2回留年)
- 身長：162cm
- B：128cm
- W：84cm
- H：116cm
- 体重：68kg



真目鈴那(しんめすずな)

馬並牧場新入社員。高学歴で向上心が高い。倍率の高い馬並牧場に就職しようと思ったのも向上心の一環。胸の拡張性があると判断され初研修だが研究部に送られる。エリート家系のため、両親はこの就職をととても喜んでいる。



★プロフィール★

- 年齢22歳
- 身長：160cm
- B：133cm
- W：78cm
- H：110cm
- 体重：63kg

尾致恋花(おちれんか)

馬並牧場4年目。胸も大きく優秀な職員。馬並牧場の職員は日々少しずつ肉便器に適した身体に肉体改造されているため入社当時よりも色んな部分が大きくなっている。面倒見もよく、後輩や世話をする馬からも慕われている。



★プロフィール★

- 年齢26歳
- 身長：165cm
- B：143cm
- W：89cm
- H：124cm
- 体重：73kg

水花越知葉(みずはなおちば)

馬並牧場3年目。凄い身体をしているが、そのことをあまり気にしていないため一般的なビーチにも遊びに行く。周りと違うことは自覚しているが、自分の体を魅力的に思ったことが無いのが原因のひとつ。



★プロフィール★

- 年齢25歳
- 身長：164cm
- B：149cm
- W：81cm
- H：121cm
- 体重：79kg

牛姫姫奈(ぎゅうきひめな)

名家「牛姫家」令嬢。ある事業の失敗により馬並牧場に入社させられる。実は牧場職員候補としてひそかに肉体改造されており、牛姫家が資金難になった際に売りに出されることは前々から決まっていた。そのことを本人はまったく知らない。



★プロフィール★

- 年齢21歳
- 身長：158cm
- B：148cm
- W：77cm
- H：126cm
- 体重：73kg

虎見友香(とらみゆか)

馬並牧場5年目。見た目の通り肉食系で、性処理業務を自身の天職だと思っている。欠勤などで人員が不足した際も率先してシフトに入るほど業務が好き。その割には感度が高すぎるためか業務終了時にはよく失神している。



★プロフィール★

- 年齢27歳
- 身長：166cm
- B：156cm
- W：84cm
- H：133cm
- 体重：81kg

白蘭なほ(びゃくらんなほ)

馬並牧場7年目。非常に優秀な身体をしており、馬からの人気も高い。その優秀さから専用肉便器となり現在特定の馬の性処理を担当している。以前はその大きな胸を活かしてパイズリメインでの性処理と搾乳を担当していた。

★プロフィール★

- 年齢29歳
- 身長：173cm
- B：178cm
- W：92cm
- H：142cm
- 体重：89kg



馬仁兔(ばにうさぎ)

馬並牧場2年目。馬並牧場では外で犯罪を犯した囚人の刑務作業として牧場業務を行わせる「強制就労枠」が存在しており、その一人。強制就労枠は表向き更正が目的だが、実際は肉体改造の治験や被検体として実験台にされることが多い。



★プロフィール★

- 年齢21歳
- 身長:157cm
- B:118cm
- W:80cm
- H:109cm
- 体重:62kg

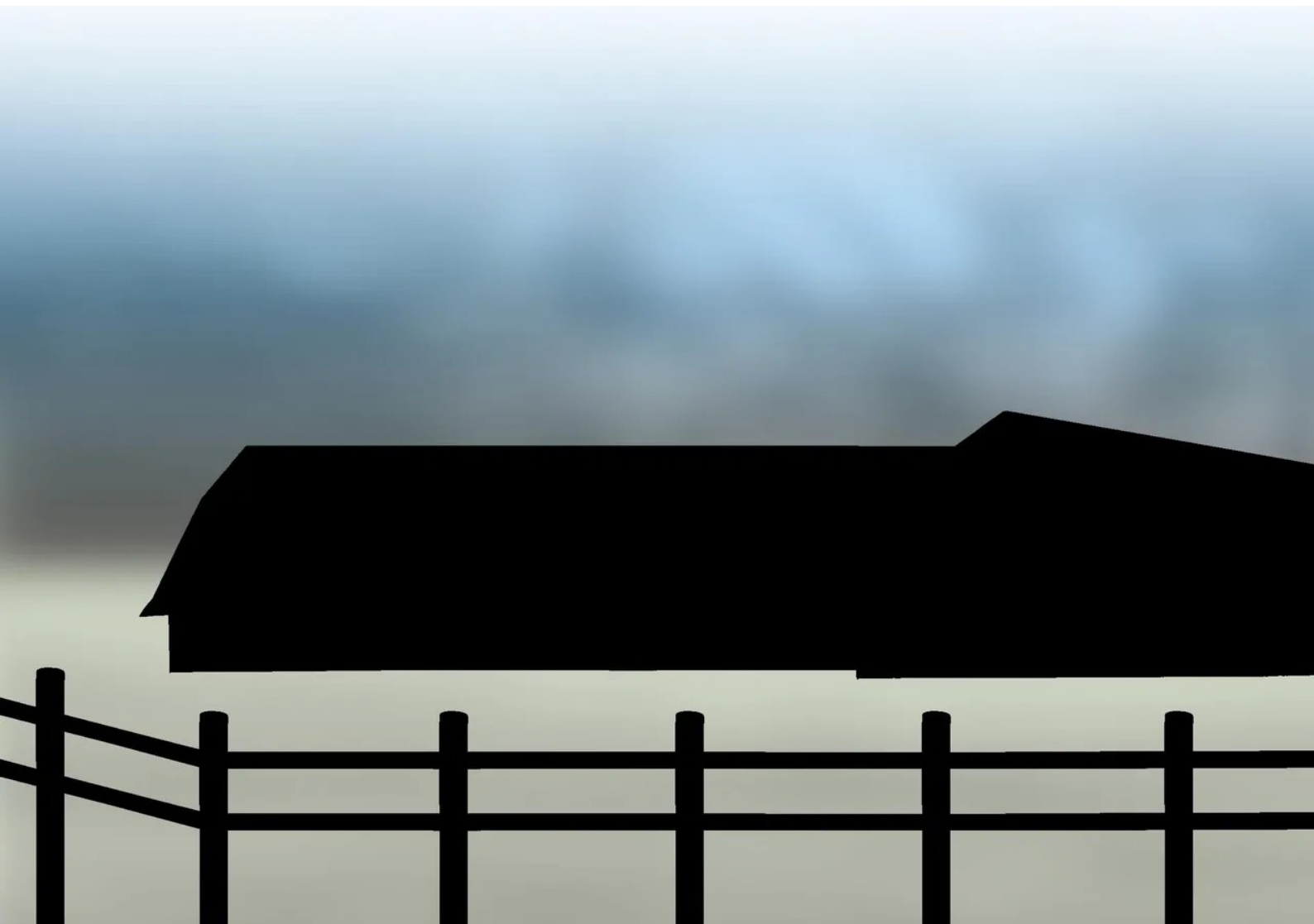
まる博士

馬並牧場研究部部長。牧場職員や馬の肉体改造などを主に担当している。馬並牧場に入社後は全員少しずつ肉体改造されていく。その経過を健康診断と称して観察しており、バレないように食事や歯磨き粉のような日常使うものにも肉体改造の薬品を混ぜている。自身にも肉体改造をしており、研究の発展のためには犠牲をいとわない俗にいうマッドサイエンティスト。

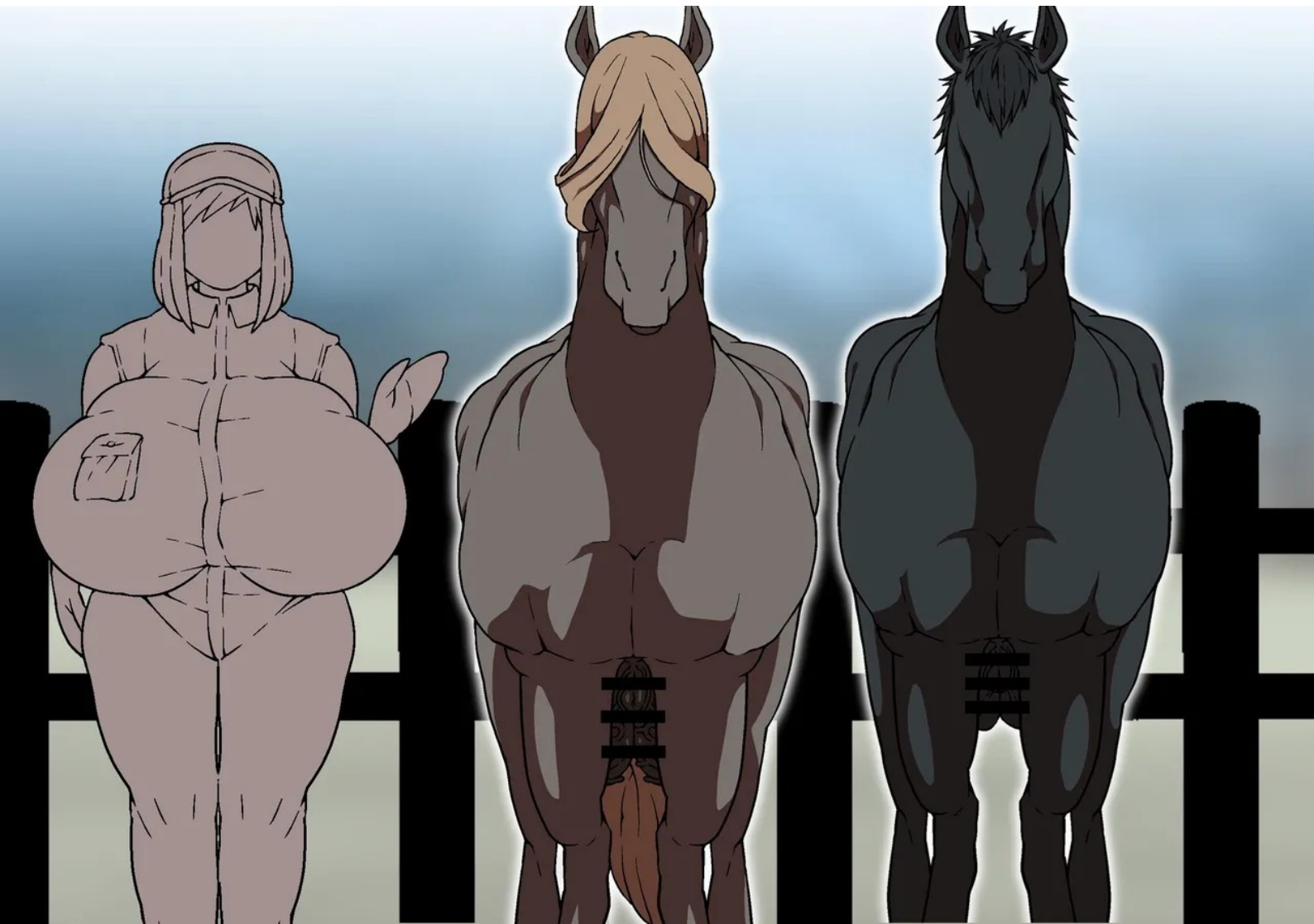


★プロフィール★

- 年齢??歳
- 身長:158cm
- B:124cm
- W:80cm
- H:122cm
- 体重:67kg



















バクン



アム

バクン

アム

アム

アム

アム

アム

アム

アム



バクッ

♡

♡
♡
♡

バクッ

アッ
アッ
アッ

アッ
アッ
アッ

アッ
アッ
アッ
アッ

アッ
アッ
アッ
アッ

♡
♡
♡

♡
♡











✓
3i5v

3i5v

3i5v













アッ

ア

アッ
アッ
アッ

アッ
アッ
アッ

アッ
アッ
アッ

アッ
アッ
アッ

アッ
アッ
アッ



ていっかん

おっ

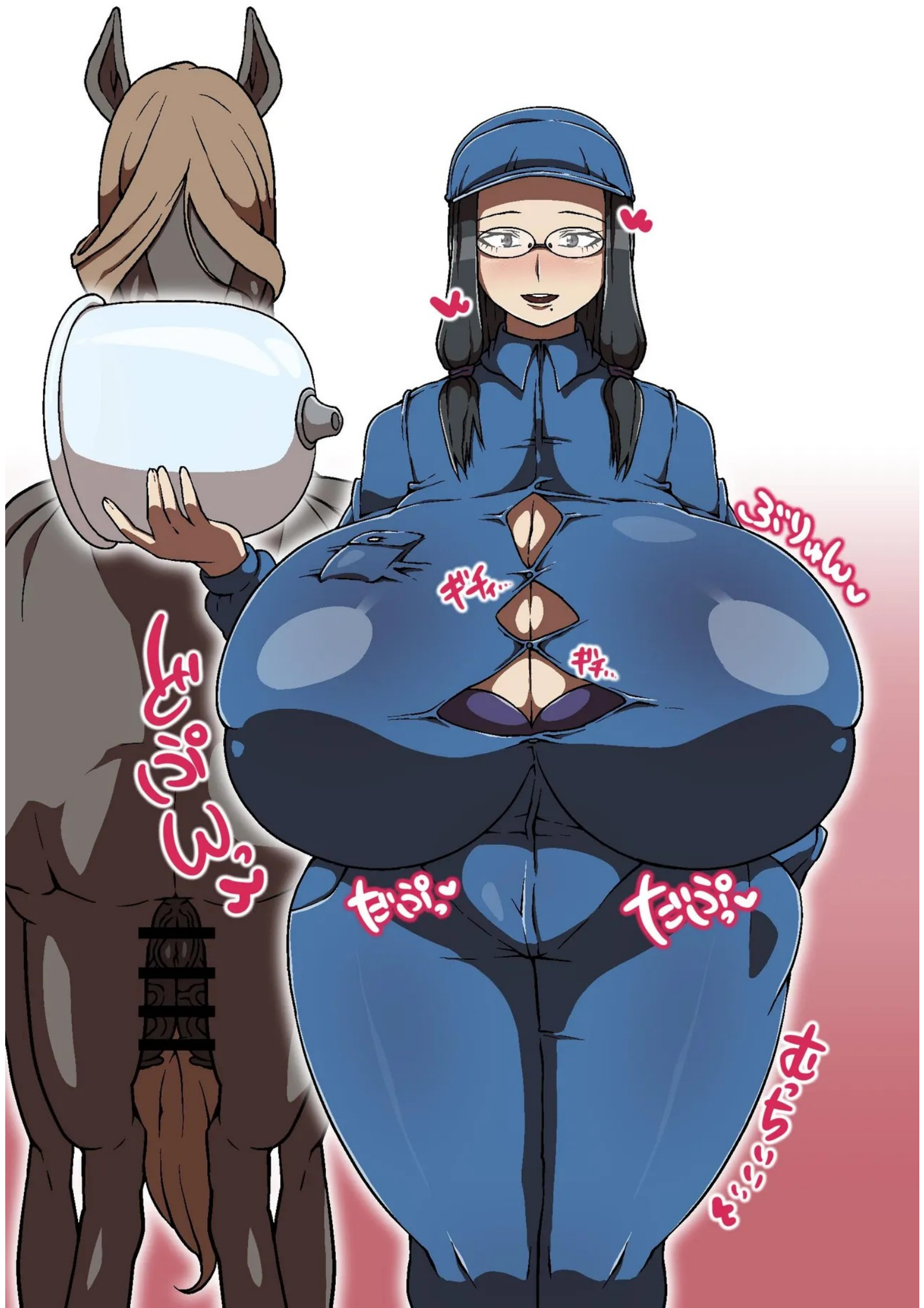
いっかん

いっかん

いっかん

いっかん







؟
؟
؟

سأهلا

يا كذا

يا كذا

يا كذا

يا كذا

يا كذا

يا كذا





おっさん

おっさん

おっさん

おっさん

おっさん

おっさん

おっさん



お肉...

お肉...

お肉...

お肉...

お肉...

お肉...

お肉...

お肉...

お肉...





ゴゴゴ

ゴゴゴ

ゴゴゴ

ゴゴゴ

ゴゴゴ

ゴゴゴ

ゴゴゴ

ゴゴゴ

ゴゴゴ

ゴゴゴ



ゴキウゴキウ

ゴキウゴキウ!

ゴキウゴキウ

ゴキウゴキウ

ゴキウゴキウ

ゴキウゴキウ

ゴキウゴキウ

ゴキウゴキウ

ゴキウゴキウ

ゴキウゴキウ

ゴキウゴキウ



あざっ
おっ

おっ

おっ

おっ

おっ

おっ

おっ

おっ

おっ

おっ

おっ





ビキキキッ

ズッ!?

バクンッ

びびび

あーっ

たっ

たっ

あーっ

たっ







ゴキョウ
ゴキョウ

ゴキョウ

ゴキョウ
ゴキョウ

ゴキョウ

グニャグニャ

グニャグニャ

グニャグニャ

グニャグニャ

おっおっ
あっあっ

あっあっ
おっおっ

[Redacted]

[Redacted]

[Redacted]

[Redacted]









#...ア...

ムー...

#...

みち...

#...

#...

#...

お...

...











どきどきどきどきどきどき

どきどき

どきどき

どきどき

どきどきどきどき

どきどきどきどき





おっぱい
おっぱい

おまんこ...?
おまんこ

おまんこ
おまんこ

おまんこ
おまんこ

おまんこ
おまんこ

おまんこ
おまんこ

おまんこ
おまんこ

おまんこ
おまんこ





アハハハハ

アハハハ

アハハハ

アハハハ

アハハハ

アハハハ





アッ

アッ

アッ

アッ

アッ

アッ











おっおっおっ
おっおっおっ

おっおっおっ
おっおっおっ







おっぱい

おっぱい

おまんこ

お尻

お尻

おまんこ

おまんこ

おまんこ

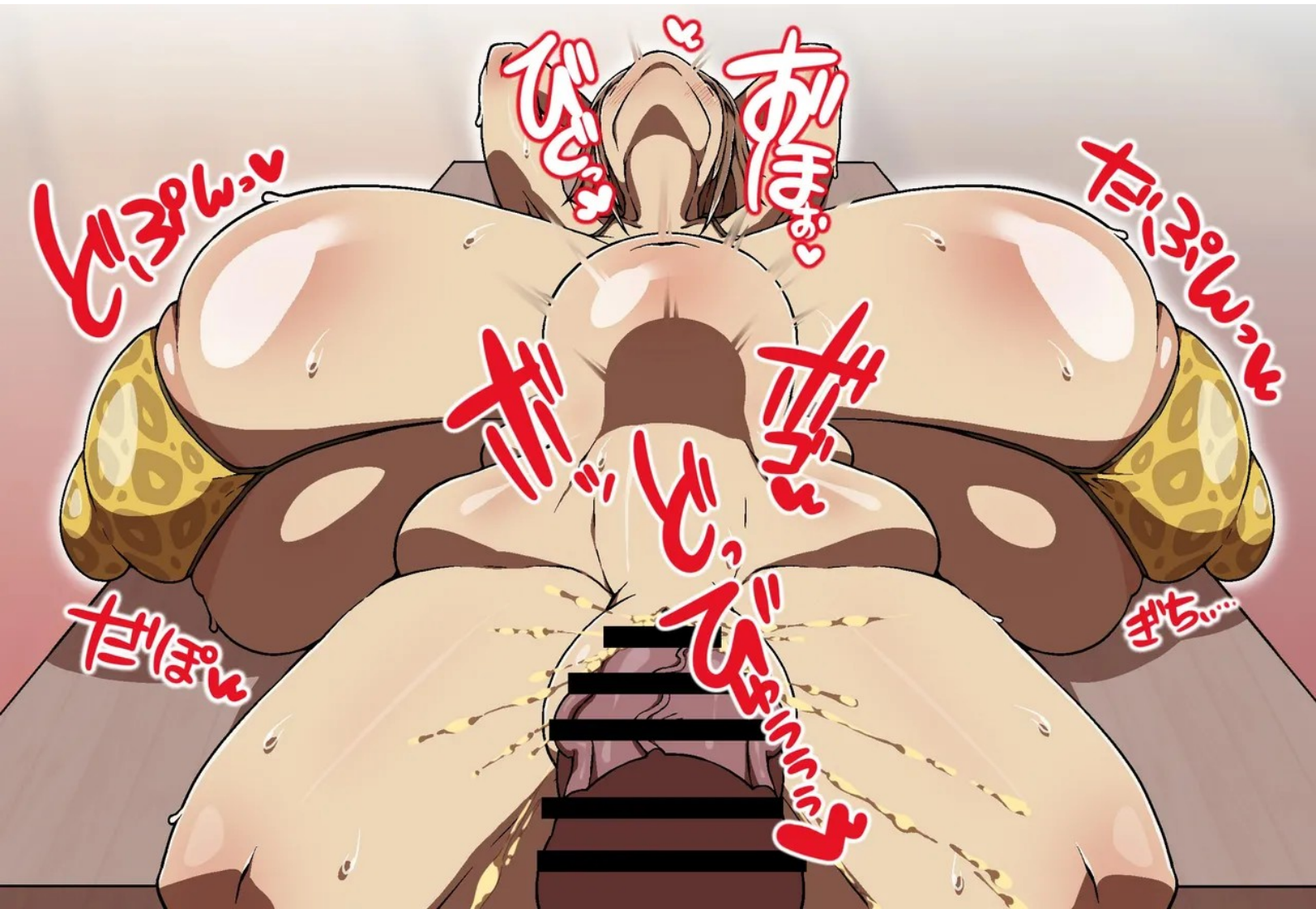


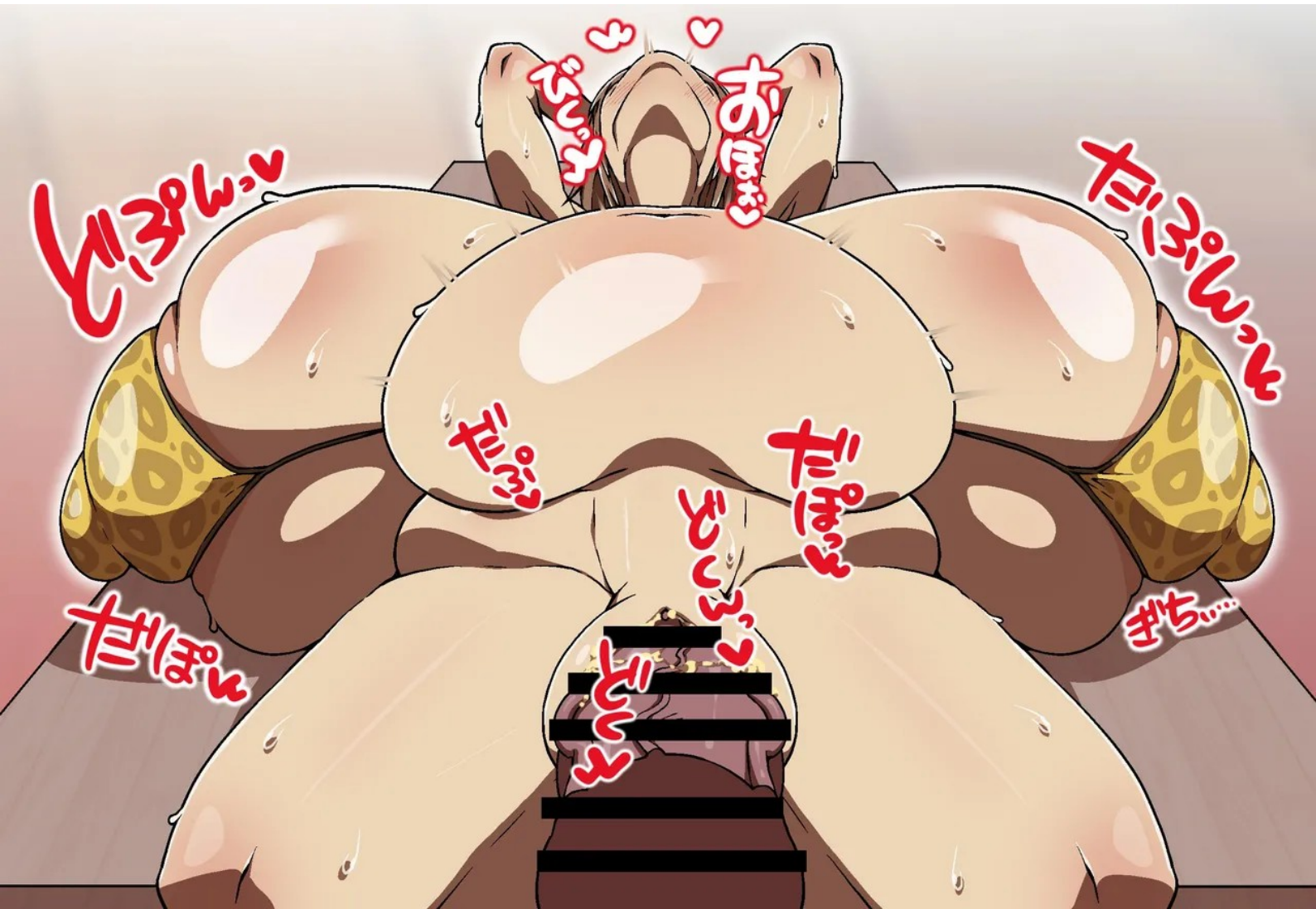












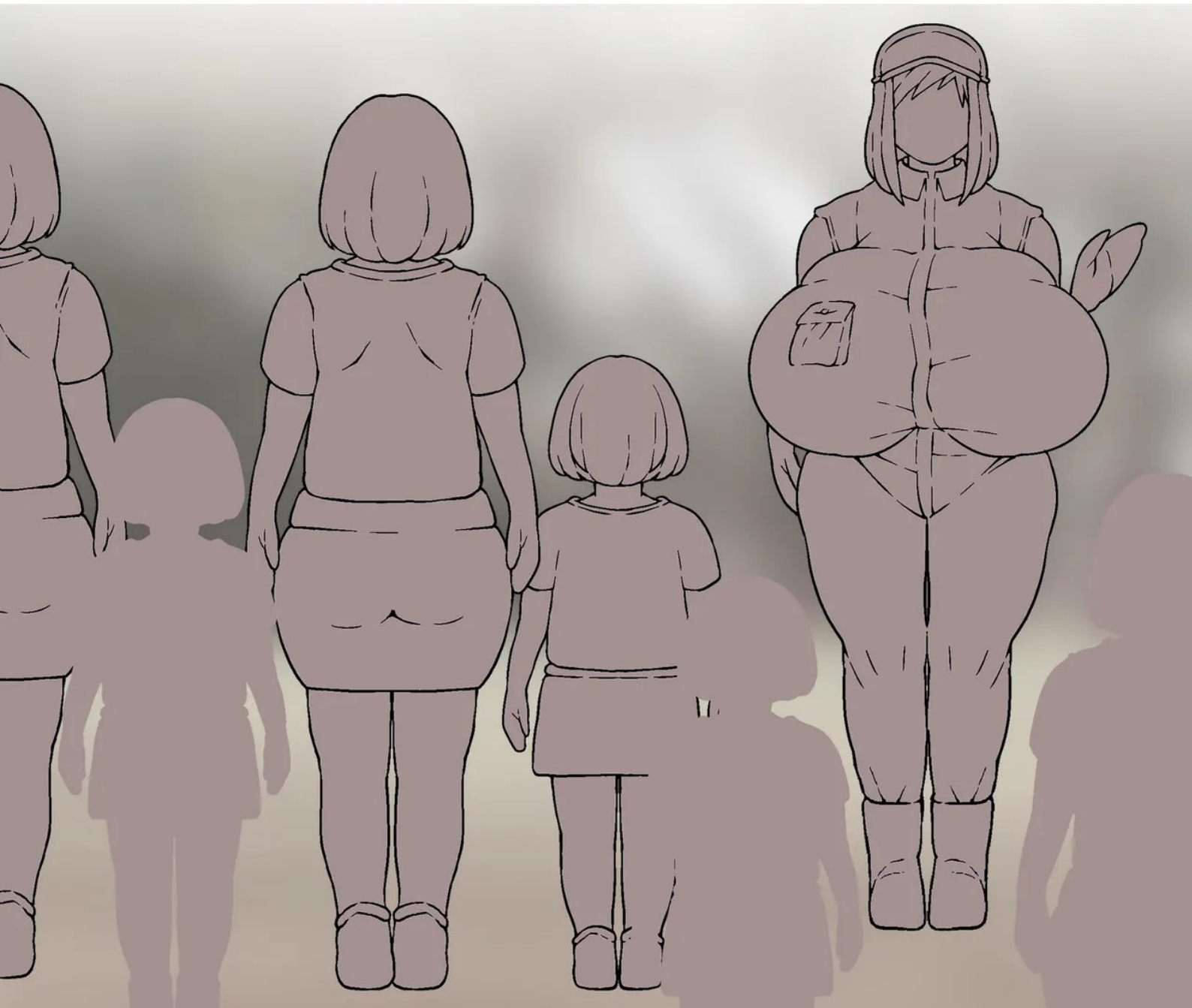


















オオ!!

オオ!!

オオ!!

オオ!!

オオ!!

オオ!!

オオ!!

オオ!!

オオ!!





なん...

え...??

ヒキキキッ

ヒキキキッ

うわ

うわ



ジ
ジ
ジ

ヒ
キ
キ
キ
キ
キ
キ

ニ
キ
キ
キ

グ
グ
グ
グ
グ

ク
ク
ク
ク
ク





















